

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合												
信託期間	無期限												
主投資対象	しんきん米国債券ETFマザーファンド、しんきんS&P500インデックスマザーファンドおよびしんきんゴールドETFマザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の各受益証券を主要投資対象とし、短期金融資産にも投資を行います。												
運用方針	①主として各マザーファンドの受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産（債券・株式・金）に分散投資を行います。												
	②各マザーファンドの受益証券への投資比率は、以下の資産配分比率を目指します。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資産</th> <th>マザーファンド</th> <th>資産配分比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米国債券</td> <td>しんきん米国債券ETFマザーファンド</td> <td>60%程度</td> </tr> <tr> <td>米国株式</td> <td>しんきんS&P500インデックスマザーファンド</td> <td>2.5%～20%程度</td> </tr> <tr> <td>金</td> <td>しんきんゴールドETFマザーファンド</td> <td>2.5%～20%程度</td> </tr> </tbody> </table>	資産	マザーファンド	資産配分比率	米国債券	しんきん米国債券ETFマザーファンド	60%程度	米国株式	しんきんS&P500インデックスマザーファンド	2.5%～20%程度	金	しんきんゴールドETFマザーファンド	2.5%～20%程度
	資産	マザーファンド	資産配分比率										
米国債券	しんきん米国債券ETFマザーファンド	60%程度											
米国株式	しんきんS&P500インデックスマザーファンド	2.5%～20%程度											
金	しんきんゴールドETFマザーファンド	2.5%～20%程度											
③ファンドの基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、米国株式と金への投資比率を上記の資産配分比率の範囲内で調整し、短期金融資産を組み入れます。（米国株式と金の資産配分は、ほぼ同じ比率とします。）													
④しんきん米国債券ETFマザーファンドについては、原則として為替ヘッジを行います。													
⑤資金動向および市況動向等に急激な変化が生じたとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができないことがあります。													
主投資制限	①投資信託証券への実質投資割合には、制限を設けません。 ②外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。												
収益配分方針	年1回の決算日に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。												

■運用報告書に関しては、下記にお問い合わせください。

しんきんアセットマネジメント投信株式会社
 <コールセンター> ☎ 0120-781812
 （土日、休日を除く）携帯電話からは03-5524-8181
 9：00～17：00

本資料は投資信託の運用状況を開示するためのものであり、ファンドの勧誘を目的とするものではありません。

運用報告書(全体版)

しんきんUSバランス・ プラスゴールド（1年決算型） 愛称：米国キラリ

決算日

（第4期：2025年2月25日）


受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てに預かり厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「しんきんUSバランス・プラスゴールド（1年決算型）」（愛称：米国キラリ）は2025年2月25日に第4期の決算を行いました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号

<https://www.skam.co.jp>

目 次

◇しんきんUSバランス・プラスゴールド（1年決算型）	頁
設定以来の運用実績	1
当期中の基準価額と市況等の推移	1
第4期の運用経過等	2
1万口当たりの費用明細	8
売買及び取引の状況	10
利害関係人との取引状況等	10
第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況	10
自社による当ファンドの設定・解約状況	10
組入資産の明細	11
投資信託財産の構成	11
資産、負債、元本及び基準価額の状況	12
損益の状況	12
分配金のお知らせ	12
◇参考情報	
親投資信託の組入資産の明細	13
◇親投資信託の運用報告書	
しんきん米国債券ETFマザーファンド	14
しんきんS&P500インデックスマザーファンド	21
しんきんゴールドETFマザーファンド	28

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 期 金 騰 落		
(設定日)	円			円	%	百万円
2021年6月14日	10,000			—	—	18
1期(2022年2月25日)	9,921			0	△0.8	308
2期(2023年2月27日)	9,302			0	△6.2	362
3期(2024年2月26日)	9,312			95	1.1	375
4期(2025年2月25日)	9,522			180	4.2	317

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 当ファンドは、海外の複数の資産（債券・株式・金）に分散投資を行っていますが、特定の指数を上回る、または連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

(注3) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、投資信託証券（上場投資信託）の組入比率は実質比率を記載しています。

(注4) 当初設定時の基準価額は当初元本（1万円当たり10,000円）として記載しています。（以下同じ。）

○当期中の基準価額と市況等の推移

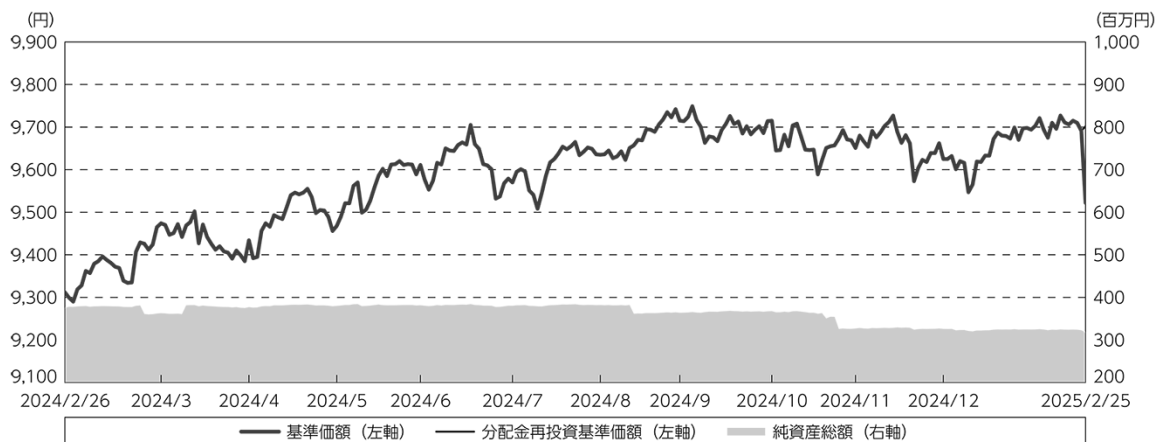
年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首)	円		%	%
2024年2月26日	9,312		—	70.1
2月末	9,319		0.1	70.1
3月末	9,474		1.7	92.0
4月末	9,434		1.3	77.3
5月末	9,468		1.7	77.0
6月末	9,611		3.2	77.8
7月末	9,570		2.8	77.0
8月末	9,635		3.5	77.1
9月末	9,715		4.3	76.6
10月末	9,715		4.3	85.1
11月末	9,651		3.6	84.1
12月末	9,625		3.4	85.8
2025年1月末	9,697		4.1	85.5
(期 末)				
2025年2月25日	9,702		4.2	86.8

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、投資信託証券（上場投資信託）の組入比率は実質比率を記載しています。

○第4期の運用経過等（2024年2月27日～2025年2月25日）

<当期中の基準価額等の推移>



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金再投資基準価額は、期首(2024年2月26日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

<基準価額の主な変動要因>

当ファンドは、マザーファンドの受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産(米国債券・米国株式・金)に分散投資を行うことで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行っています。

当期は、米国株式市場と金相場の上昇が基準価額に対してプラスに寄与したことを主因に基準価額は上昇しました。

各マザーファンドの主な変動要因は、次のとおりです。

米国債券

●しんきん米国債券ETFマザーファンド

<上昇要因>

- ・フランスの政局不安によりリスク回避の動きが強まり、米10年債利回りが低下(債券価格は上昇)したこと。
- ・米国景気の減速懸念が高まったこと。

<下落要因>

- ・米国経済の堅調さを示唆するデータが散見され、米10年債利回りが上昇(債券価格は下落)したこと。
- ・トランプ次期政権の政策がインフレを喚起するとの見方が広がったこと。

米国株式

●しんきんS&P500インデックスマザーファンド

<上昇要因>

- ・米国の企業決算が好調だったこと。
- ・米連邦準備制度理事会(FRB)が利下げを実施し、米経済成長の見通しが上方修正されたこと。

- ・トランプ次期政権が掲げる規制緩和や減税が米国景気を刺激すると期待されたこと。

<下落要因>

- ・米国景気の減速懸念が高まったこと。
- ・中国のA I 開発企業であるD e e p S e e k (ディープシーク) が開発した低コストの高性能A I が米ハイテク企業の競争環境を変化させる可能性があるとの警戒感が高まったこと。

金

●しんきんゴールドE T Fマザーファンド

<上昇要因>

- ・中東情勢が激化したこと。
- ・2024年9月の米連邦公開市場委員会(F O M C)で0.5%の利下げが実施されたこと。
- ・トランプ次期政権の関税政策に対する警戒感が高まったこと。

<下落要因>

- ・F R B高官が利下げに慎重な発言をしたこと。

<投資環境>

(米国債券市況)

当期の米国国債市場では、米10年債利回りがほぼ横ばいとなりました。

期首から2024年4月末にかけては、米雇用統計や米供給管理協会(I S M) 製造業景況指数などの経済指標が市場予想を上回り、米国経済の堅調さを示唆するデータが散見されたことに加え、3月の米消費者物価指数(C P I) がインフレ懸念の再燃を示唆したことなどから、米10年債利回りは4.7%程度まで上昇しました。9月中旬にかけては、I S M製造業景況指数や米雇用統計が市場予想を下回ったことに加え、フランスの政局不安によりリスク回避の動きが強まったことから、米10年債利回りは低下しました。9月のF O M Cでは利下げが実施されたものの、パウエルF R B議長が利下げは急がないと発言したことから、米10年債利回りは上昇しました。10月から2025年1月中旬にかけては、堅調な米国景気やトランプ次期政権の政策がインフレを喚起するとの見方が広がったことを背景に、米10年債利回りは4.8%程度まで上昇しました。当期末にかけては、米インフレ指標が物価上昇圧力の緩和を示唆し、さらに米消費者信頼感指数が市場予想を下回ったことから、米国景気の減速懸念が高まり、米10年債利回りは低下しました。

(米国株式市況)

当期の米国株式市場は、全体として上昇しました。

期首から2024年3月までは、米国の経済指標がインフレ鈍化を示唆したことや、3月のF O M Cで年3回の利下げが示唆されたことに加えて、2024年から2026年の米経済成長率見通しが引き上げられたこともあり、株式市場は上昇基調で推移しました。4月は、F R B高官による利下げ慎重姿勢の表明や、中東情勢の悪化によるリスク回避の動きが市場の重しとなり、下落基調となりました。その後、5月から6月にかけては、好調な米国企業決算やインフレ鈍化が支援材料となり、再び上昇に転じました。7月から8月は、米国景気の減速懸念が高まり、一時的に大きく下落する局面もありましたが、F R Bの金融政策に対する期待感が市場を下支えし、最終的には堅調に推移しました。

9月から10月にかけては、F R Bが利下げを実施し、米経済成長の見通しが上方修正されたことが市場の支援材料となり、株式市場は上昇基調を維持しました。11月以降は、トランプ次期政権が掲げる規制緩和や減税が米国景気を刺激するとの期待で上昇する局面もありましたが、同政権の通商政策への不透明感や、中国のA I 開発企業であるD e e p S e e k (ディープシーク) が開発した低コストの高性能A I が米ハイテク企業の競争環境を変化させる可能性があるとの警戒感から、市場は一進一退の動きとなりました。

(金市況)

当期の金相場は、大きく上昇しました。

期首から2024年4月中旬にかけては、米国の経済指標の悪化に伴うFRBの早期利下げ期待の高まりや中東情勢の激化などを背景に、金相場は大きく上昇しました。8月末にかけては、一部のFRB高官が利下げに慎重な発言をしたことなどから下落する局面もありましたが、フランス政治の混乱によるリスク回避の動きや中東の地政学リスクの高まりなどを背景に、じりじりと上昇する展開となりました。10月中旬にかけては、9月のFOMCで0.5%の利下げが実施されたことや、米大統領選挙に対する不透明感などから、金相場は大きく上昇しました。当期末にかけては、急激な上昇に対する警戒感が高まり、売りが優勢となったことや、米大統領選挙でトランプ氏勝利を受けた米10年債利回りの上昇が重しとなり、下落する局面もありました。しかし、中国の金融政策スタンスの緩和による金需要の増加や、トランプ次期政権の関税政策に対する警戒感などから、安全資産としての買いが優勢となり、もみ合いながら上昇しました。

(為替市況)

当期の為替(米ドル円)相場は、米ドル安円高となりました。

期首から2024年6月末までは、米国のインフレ指標や雇用統計の結果を受けて、米国の早期利下げ観測が後退し、日米金利差が意識される中、米ドル円相場は160円台まで上昇しました。7月から9月半ばにかけては、日銀の追加利上げ観測が高まったことや米国景気の減速懸念が強まる中、米ドルは下落しました。9月半ばから2025年1月上旬にかけては、米国の経済指標が堅調な結果を示したことなどから米10年債利回りが上昇し、米ドルが上昇しました。当期末にかけては、日銀が利上げを実施したことや米10年債利回りが低下したことなどから再び下落しました。

<当ファンドのポートフォリオ>

当ファンドでは、親投資信託である「しんきん米国債券ETFマザーファンド」(米国債券)、「しんきんS&P500インデックスマザーファンド」(米国株式)、「しんきんゴールドETFマザーファンド」(金)の受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産(米国債券・米国株式・金)に分散投資を行いました。

当ファンドは、米国債券の投資比率を「60%程度」としつつ、ファンドの基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、米国株式と金への投資比率をそれぞれ「2.5~20%程度」の範囲内で調整します。当期は、2024年3月に基準価額の変動リスクが低下したことから、米国株式と金への投資比率を引き上げましたが、4月に基準価額の変動リスクが上昇したことから、米国株式と金への投資比率を引き下げました。その後、10月と2025年2月に基準価額の変動リスクが低下したことから、米国株式と金への投資比率を再び引き上げました。

また、米国債券については、原則として為替ヘッジを行っています。

当期の各月末および決算日（2025年2月25日）の各資産（該当するマザーファンド）への投資比率は、下表のとおりです。

		米国債券	米国株式	金
2024年	2月	60.2%	5.0%	5.0%
	3月	59.8%	16.0%	16.3%
	4月	60.4%	8.5%	8.5%
	5月	60.0%	8.6%	8.6%
	6月	60.3%	8.9%	8.9%
	7月	59.7%	8.7%	8.8%
	8月	60.1%	8.6%	8.6%
	9月	59.3%	8.8%	8.7%
	10月	60.1%	12.4%	12.7%
	11月	59.7%	12.2%	12.3%
	12月	60.3%	12.8%	12.9%
2025年	1月	59.7%	12.9%	13.0%
	2月	57.0%	14.8%	15.2%

各マザーファンドの運用経過は、次のとおりです。

米国債券

●しんきん米国債券ETFマザーファンド

信託財産の成長を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ・コア 米国総合債券市場 ETF」を主要投資対象として運用を行いました。上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

米国株式

●しんきんS&P500インデックスマザーファンド

S&P500指数（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ・コア S&P500 ETF」を主要投資対象として運用を行いました。上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

金

●しんきんゴールドETFマザーファンド

金地金価格への連動と信託財産の成長を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ ゴールド・トラスト」を主要投資対象として運用を行いました。上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

＜当ファンドのベンチマークとの差異＞

当ファンドは、海外の複数の資産（米国債券・米国株式・金）に分散投資を行っていますが、特定の指数を上回る、または連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

＜分配金＞

当期の分配金については、経費控除後の配当等収益や期末の基準価額水準等を勘案して、1万口当たり180円（税込み）としました。

なお、収益分配に充てなかった部分については、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第4期
	2024年2月27日～ 2025年2月25日
当期分配金	180
（対基準価額比率）	1.855%
当期の収益	180
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	60

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

＜今後の運用方針＞

引き続き運用の基本方針に従い、主として親投資信託である「しんきん米国債券ETFマザーファンド」（米国債券）、「しんきんS&P500インデックスマザーファンド」（米国株式）、「しんきんゴールドETFマザーファンド」（金）の受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産（米国債券・米国株式・金）に分散投資を行います。

各資産への投資比率は、米国債券の投資比率を「60%程度」としつつ、ファンドの基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、米国株式と金への投資比率をそれぞれ「2.5～20%程度」の範囲内で調整します。米国株式と金の投資比率は、ほぼ同じ比率とします。

なお、米国債券については、原則として為替ヘッジを行います。

各マザーファンドの運用方針は、次のとおりです。

米国債券

●しんきん米国債券ETFマザーファンド

主として上場投資信託である「iシェアーズ・コア 米国総合債券市場ETF」へ投資することで、実質的に米国の債券に投資を行い、信託財産の成長を目指します。

米国株式

●しんきんS&P500インデックスマザーファンド

主として上場投資信託である「iシェアーズ・コアS&P500 E T F」へ投資することで、実質的に米国の株式に投資を行い、S & P 500指数（配当込み、円換算ベース）に連動することを目指します。

金

●しんきんゴールドE T Fマザーファンド

主として上場投資信託である「iシェアーズ ゴールド・トラスト」へ投資することで、金地金価格への連動と信託財産の成長を目指します。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2024年2月27日～2025年2月25日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	86	0.900	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(40)	(0.417)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(43)	(0.450)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	6	0.061	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(投 資 信 託 証 券)	(6)	(0.061)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.001)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	10	0.099	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(8)	(0.088)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(1)	(0.005)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	102	1.061	
期中の平均基準価額は、9,576円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等の掛かるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

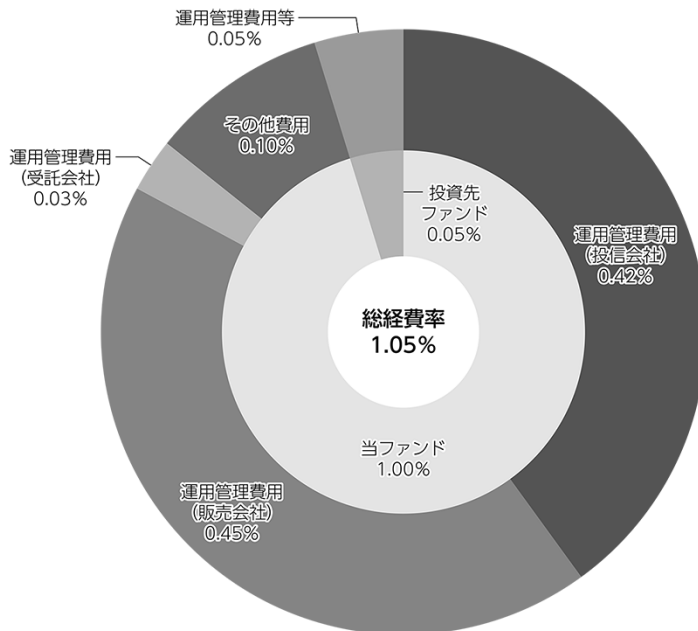
(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.05%です。



(単位: %)

総経費率(①+②)	1.05
①当ファンドの費用の比率	1.00
②投資先ファンドの運用管理費用等の比率	0.05

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドの親投資信託が組み入れている投資信託証券です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用等の他に費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2024年2月27日～2025年2月25日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
しんきんS&P500インデックスマザーファンド	39,955	75,824	28,372	53,775
しんきん米国債券ETFマザーファンド	27,746	34,725	70,458	89,932
しんきんゴールドETFマザーファンド	46,638	74,805	35,888	59,936

(注) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2024年2月27日～2025年2月25日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況

(2024年2月27日～2025年2月25日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2024年2月27日～2025年2月25日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年2月25日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
しんきんS&P500インデックスマザーファンド	10,850	22,432	46,878
しんきん米国債券ETFマザーファンド	184,334	141,622	180,823
しんきんゴールドETFマザーファンド	13,426	24,176	48,306

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「参考情報」または「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2025年2月25日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
しんきんS&P500インデックスマザーファンド	46,878	14.4
しんきん米国債券ETFマザーファンド	180,823	55.6
しんきんゴールドETFマザーファンド	48,306	14.8
コール・ローン等、その他	49,506	15.2
投資信託財産総額	325,513	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) しんきんS&P500インデックスマザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(78,178,003千円)の投資信託財産総額(78,541,864千円)に対する比率は99.5%です。

(注3) しんきん米国債券ETFマザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(180,765千円)の投資信託財産総額(180,824千円)に対する比率は100.0%です。

(注4) しんきんゴールドETFマザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(48,245千円)の投資信託財産総額(52,965千円)に対する比率は91.1%です。

(注5) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2025年2月25日現在、1ドル=150.23円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年2月25日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	505,558,836
コール・ローン等	43,866,908
しんきんS&P500インデックスマザーファンド(評価額)	46,878,196
しんきん米国債券ETFマザーファンド(評価額)	180,823,924
しんきんゴールドETFマザーファンド(評価額)	48,306,635
未収入金	185,682,753
未収利息	420
(B) 負債	188,467,723
未払金	180,190,434
未払収益分配金	5,994,166
未払解約金	712,767
未払信託報酬	1,560,896
その他未払費用	9,460
(C) 純資産総額(A-B)	317,091,113
元本	333,009,236
次期繰越損益金	△ 15,918,123
(D) 受益権総口数	333,009,236口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,522円

(注1) 当ファンドの期首元本額は402,982,805円、期中追加設定元本額は55,889,057円、期中一部解約元本額は125,862,626円です。

(注2) 1口当たり純資産額は0.9522円です。

○損益の状況 (2024年2月27日～2025年2月25日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	64,802
受取利息	69,053
支払利息	△ 4,251
(B) 有価証券売買損益	15,152,988
売買益	59,279,875
売買損	△44,126,887
(C) 信託報酬等	△ 3,286,710
(D) 当期損益金(A+B+C)	11,931,080
(E) 前期繰越損益金	△16,053,791
(F) 追加信託差損益金	△ 5,801,246
(配当等相当額)	(878,298)
(売買損益相当額)	(△ 6,679,544)
(G) 計(D+E+F)	△ 9,923,957
(H) 収益分配金	△ 5,994,166
次期繰越損益金(G+H)	△15,918,123
追加信託差損益金	△ 5,801,246
(配当等相当額)	(971,229)
(売買損益相当額)	(△ 6,772,475)
分配準備積立金	1,028,685
繰越損益金	△11,145,562

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(6,022,320円)、費用控除後の有価証券売買等損益額(0.0円)、信託約款に規定する収益調整金(971,229円)および分配準備積立金(1,000,531円)より分配対象収益は7,994,080円(10,000口当たり240円)であり、うち5,994,166円(10,000口当たり180円)を分配金額としています。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込)	180円
---------------	------

◇分配金を再投資される場合のお手取分配金は、自動けいぞく投資約款の規定に基づき、決算日の翌営業日に再投資いたしました。

◇分配金をお受け取りになる場合の分配金は、決算日から起算して5営業日目までにお支払いを開始しています。

◇分配金のお取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

(注1) 分配金は、分配後の基準価額と各受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)があります。分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額が「普通分配金」となります。分配後の基準価額を下回る場合は、下回る部分に相当する金額が「元本払戻金(特別分配金)」、残りの部分が「普通分配金」となります。

(注2) 元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時に各受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の各受益者の個別元本となります。

○（参考情報）親投資信託の組入資産の明細

（2025年2月25日現在）

<しんきんS&P500インデックスマザーファンド>

下記は、しんきんS&P500インデックスマザーファンド全体(37,437,053千口)の内容です。

外国投資信託証券

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額		比 率
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%
ISHARES CORE S&P 500 ETF	616,282	869,701	521,820	78,393,108	100.2
合 計	口 数 ・ 金 額	口 数	521,820	78,393,108	
	銘柄 数 < 比 率 >	1	-	<100.2%>	

(注1) 邦貨換算金額は、2025年2月25日現在の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) < >内は、このファンドが組み入れている親投資信託の純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切り捨て。

<組入上位ETFの保有銘柄の明細>

※BlackRock Inc. 作成のANNUAL REPORTの内容を基に、しんきんアセットマネジメント投信（株）が作成しています。

iShares Core S&P 500 ETF

組入上位10銘柄（2024年3月31日現在）

（組入銘柄数 503銘柄）

	銘 柄 名	比 率 (%)
1	MICROSOFT CORP	7.1
2	APPLE INC	5.6
3	NVIDIA CORP	5.1
4	AMAZON COM INC	3.7
5	META PLATFORMS INC CLASS A	2.4
6	ALPHABET INC CLASS A	2.0
7	BERKSHIRE HATHAWAY INC CLASS B	1.7
8	ALPHABET INC CLASS C	1.7
9	ELI LILLY	1.4
10	BROADCOM INC	1.3

運用報告書

親投資信託

しんきん米国債券ETFマザーファンド

第4期

(決算日：2025年2月25日)

しんきん米国債券ETFマザーファンドの第4期に係る運用状況をご報告申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
主要投資対象	米国の金融商品取引所に上場している投資信託証券（以下「上場投資信託証券」といいます。）を主要投資対象とします。
運用方針	<ul style="list-style-type: none">①主として上場投資信託証券である「iシェアーズ・コア米国総合債券市場ETF」への投資を行い、実質的に米国の債券に投資を行います。②上場投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。③運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。④組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。⑤市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
投資制限	<ul style="list-style-type: none">①株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。②新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。③投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。④同一銘柄の転換社債および新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。⑤同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。⑥外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	騰 落 中 率	投 資 信 託 純 資 産 額	組 入 比 率
(設定日) 2021年6月14日	10,000	—	10	—
1期(2022年2月25日)	10,065	0.7	183	100.7
2期(2023年2月27日)	10,740	6.7	220	99.9
3期(2024年2月26日)	12,231	13.9	225	99.9
4期(2025年2月25日)	12,768	4.4	180	99.7

(注1) 当初設定時の基準価額は当初元本（1万円当たり10,000円）として記載しています。（以下同じ。）

(注2) 当ファンドは、上場投資信託証券を通じて米国の債券に投資を行っていますが、特定の指数を上回る、または連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	投 資 信 託 純 資 産 額	組 入 比 率
(期首) 2024年2月26日	12,231	—	225	99.9
2月末	12,275	0.4	220	99.6
3月末	12,461	1.9	225	100.0
4月末	12,640	3.3	225	99.8
5月末	12,739	4.2	225	99.8
6月末	13,305	8.8	225	99.7
7月末	12,761	4.3	225	99.7
8月末	12,390	1.3	225	99.7
9月末	12,369	1.1	225	99.7
10月末	12,947	5.9	225	100.0
11月末	12,784	4.5	225	99.9
12月末	13,195	7.9	225	99.8
2025年1月末	13,009	6.4	180	99.8
(期末) 2025年2月25日	12,768	4.4	180	99.7

(注) 騰落率は期首比です。

○第4期の運用経過等（2024年2月27日～2025年2月25日）

＜当期中の基準価額等の推移＞



当ファンドは、上場投資信託への投資を通じて、実質的に米国の債券に投資を行っています。当期の基準価額は上昇しました。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

＜上昇要因＞

- ・フランスの政局不安によりリスク回避の動きが強まり、米10年債利回りが低下（債券価格は上昇）したこと。
- ・米国景気の減速懸念が高まったこと。

＜下落要因＞

- ・米国経済の堅調さを示唆するデータが散見され、米10年債利回りが上昇（債券価格は下落）したこと。
- ・トランプ次期政権の政策がインフレを喚起するとの見方が広がったこと。

＜投資環境＞

（米国債券市況）

当期の米国国債市場では、米10年債利回りがほぼ横ばいとなりました。

期首から2024年4月末にかけては、米雇用統計や米供給管理協会（ISM）製造業景況指数などの経済指標が市場予想を上回り、米国経済の堅調さを示唆するデータが散見されたことに加え、3月の米消費者物価指数（CPI）がインフレ懸念の再燃を示唆したことなどから、米10年債利回りは4.7%程度まで上昇しました。9月中旬にかけては、ISM製造業景況指数や米雇用統計が市場予想を下回ったことに加え、フランスの政局不安によりリスク回避の動きが強まったことから、米10年債利回りは低下しました。9月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では利下げが実施されたものの、パウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長が利下げは急がないと発言したことから、米10年債利回りは上昇しました。10月から2025年1月中旬にかけては、堅調な米国景気やトランプ次期政権の政策がインフレを喚起するとの見方が広がったことを背景に、米10年債利回りは4.8%程度まで上昇しました。当期末にかけては、米インフレ指標が物価上昇圧力の緩和を示唆し、さらに米消費者信頼感指数が市場予想を下回ったことから、米国景気の減速懸念が高まり、米10年債利回りは低下しました。

(為替市況)

当期の為替（米ドル円）相場は、米ドル安円高となりました。

期首から2024年6月末までは、米国のインフレ指標や雇用統計の結果を受けて、米国の早期利下げ観測が後退し、日米金利差が意識される中、米ドル円相場は160円台まで上昇しました。7月から9月半ばにかけては、日銀の追加利上げ観測が高まったことや米国景気の減速懸念が強まる中、米ドルは下落しました。9月半ばから2025年1月上旬にかけては、米国の経済指標が堅調な結果を示したことなどから米10年債利回りが上昇し、米ドルが上昇しました。当期末にかけては、日銀が利上げを実施したことや米10年債利回りが低下したことなどから再び下落しました。

<当ファンドのポートフォリオ>

信託財産の成長を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ・コア 米国総合債券市場 ETF」を主要投資対象として運用を行いました。

上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

<当ファンドのベンチマークとの差異>

当ファンドは、上場投資信託への投資を通じて、実質的に米国の債券に投資を行っていますが、特定の指数を上回る、または連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

<今後の運用方針>

引き続き、主として上場投資信託である「iシェアーズ・コア 米国総合債券市場 ETF」へ投資すること、実質的に米国の債券に投資を行い、信託財産の成長を目指します。

○1万口当たりの費用明細

(2024年2月27日～2025年2月25日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (投 資 信 託 証 券)	円 4 (4)	% 0.029 (0.029)	(a)売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (投 資 信 託 証 券)	0 (0)	0.001 (0.001)	(b)有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	10 (10) (0)	0.078 (0.075) (0.003)	(c)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	14	0.108	
期中の平均基準価額は、12,739円です。			

(注1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2024年2月27日～2025年2月25日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国	アメリカ	口	千ドル	口	千ドル
	ISHARES CORE U.S. AGGREGATE BOND ETF	2,893	285	6,069	594

(注1) 金額は受渡代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2024年2月27日～2025年2月25日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2025年2月25日現在)

外国投資信託証券

銘 柄	期首(前期末)		当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額		比 率
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%
ISHARES CORE U.S. AGGREGATE BOND ETF	15,394	12,218	1,199	180,228	99.7
合 計	口 数 ・ 金 額	15,394	12,218	1,199	180,228
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	1	-	<99.7%>

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) < >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切り捨て。

<組入上位ETFの保有銘柄の明細>

※BlackRock Inc. 作成のANNUAL REPORTの内容を基に、しんきんアセットマネジメント投信(株)が作成しています。

iShares Core U.S. Aggregate Bond ETF

組入上位10銘柄 (2024年2月29日現在)

(組入銘柄数 11,547銘柄)

	銘 柄 名	利 率 (%)	満 期 日	比 率 (%)
1	TREASURY NOTE	0.38	2026/1/31	0.6
2	TREASURY NOTE	2.88	2032/5/15	0.4
3	TREASURY NOTE	0.75	2028/1/31	0.4
4	TREASURY NOTE (OLD)	4.50	2033/11/15	0.4
5	TREASURY NOTE (20LD)	3.88	2033/8/15	0.4
6	TREASURY NOTE	4.13	2032/11/15	0.4
7	TREASURY NOTE	2.75	2032/8/15	0.4
8	TREASURY NOTE	1.50	2026/8/15	0.4
9	TREASURY NOTE	1.88	2032/2/15	0.4
10	TREASURY NOTE	3.50	2033/2/15	0.4

※マネー・マーケット・ファンドを除いて表示しています。

○投資信託財産の構成

(2025年2月25日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 180,228	% 99.7
コール・ローン等、その他	596	0.3
投資信託財産総額	180,824	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産(180,765千円)の投資信託財産総額(180,824千円)に対する比率は100.0%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2025年2月25日現在、1ドル=150.23円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年2月25日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	180,824,964
コール・ローン等	596,224
投資信託受益証券(評価額)	180,228,740
(B) 負債	0
(C) 純資産総額(A-B)	180,824,964
元本	141,622,748
次期繰越損益金	39,202,216
(D) 受益権総口数	141,622,748口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,768円

(注1) 当親投資信託の期首元本額は184,334,291円、期中追加設定元本額は27,746,874円、期中一部解約元本額は70,458,417円です。

(注2) 当親投資信託を投資対象とする投資信託の当期末元本額しんきんUSバランス・プラスゴールド(1年決算型) 141,622,748円

(注3) 1口当たり純資産額は1.2768円です。

○損益の状況 (2024年2月27日~2025年2月25日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	7,903,541
受取配当金	7,903,163
受取利息	378
(B) 有価証券売買損益	2,841,891
売買益	3,672,158
売買損	△ 830,267
(C) 保管費用等	△ 169,565
(D) 当期損益金(A+B+C)	10,575,867
(E) 前期繰越損益金	41,121,806
(F) 追加信託差損益金	6,978,126
(G) 解約差損益金	△19,473,583
(H) 計(D+E+F+G)	39,202,216
次期繰越損益金(H)	39,202,216

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

運用報告書

親投資信託

しんきんS&P500インデックスマザーファンド

第4期

(決算日：2024年12月20日)

しんきんS&P500インデックスマザーファンドの第4期に係る運用状況をご報告申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
主要投資対象	米国の金融商品取引所に上場している投資信託証券（以下「上場投資信託証券」といいます。）を主要投資対象とします。
運用方針	①主として上場投資信託証券である「iシェアーズ・コアS&P 500 ETF」への投資を行い、実質的に米国の株式に投資を行います。 ②上場投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。 ③運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。 ④組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ⑤市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
投資制限	①株式への投資割合には、制限を設けません。 ②新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ③投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ④同一銘柄の転換社債および新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ⑤同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ⑥外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		S & P 5 0 0 指数 (配当込み、円換算ベース) [※] (ベンチマーク)		投資信託 組入比	純資産 総額
	騰落	中率	騰落	中率		
(設定日) 2021年4月12日	円 10,000	% —	ポイント 10,000	% —	% —	百万円 155
1期(2021年12月20日)	11,693	16.9	11,697	17.0	100.5	5,879
2期(2022年12月20日)	11,605	△ 0.8	11,632	△ 0.6	99.9	19,403
3期(2023年12月20日)	15,746	35.7	15,813	35.9	99.8	37,744
4期(2024年12月20日)	21,490	36.5	21,633	36.8	99.9	73,685

(注1) 当初設定時の基準価額は当初元本（1万円当たり10,000円）として記載しています。（以下同じ。）

(注2) S&P500指数（配当込み、円換算ベース）は2021年4月12日の値を10,000としてしんきんアセットマネジメント投信が算出したものです。（以下同じ。）

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		S & P 5 0 0 指数 (配当込み、円換算ベース) [※] (ベンチマーク)		投資信託 組入比
	騰落	率	騰落	率	
(期首) 2023年12月20日	円 15,746	% —	ポイント 15,813	% —	% 99.8
12月末	15,566	△ 1.1	15,625	△ 1.2	99.9
2024年1月末	16,677	5.9	16,752	5.9	100.1
2月末	17,560	11.5	17,634	11.5	100.4
3月末	18,289	16.2	18,390	16.3	100.1
4月末	18,478	17.4	18,570	17.4	100.2
5月末	18,917	20.1	19,011	20.2	100.0
6月末	20,380	29.4	20,483	29.5	100.3
7月末	19,130	21.5	19,238	21.7	100.3
8月末	18,726	18.9	18,822	19.0	100.1
9月末	18,939	20.3	19,060	20.5	100.0
10月末	20,690	31.4	20,805	31.6	99.4
11月末	20,965	33.1	21,089	33.4	99.9
(期末) 2024年12月20日	21,490	36.5	21,633	36.8	99.9

(注) 騰落率は期首比です。

※S & P 5 0 0 指数[®]はS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJ」）の商品であり、これを利用するライセンスがしんきんアセットマネジメント投信株式会社に付与されています。Standard & Poor's[®]およびS&P[®]は、Standard & Poor's Financial Services LLC（「S&P」）の登録商標で、Dow Jones[®]は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。しんきんS & P 5 0 0 インデックスマザーファンドは、SPDJI、Dow Jones、S&P、それらの各関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S & P 5 0 0 指数[®]のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

○第4期の運用経過等（2023年12月21日～2024年12月20日）

<当期中の基準価額等の推移>



当ファンドは、S & P 500指数（配当込み、円換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行っています。

当期の基準価額は上昇しました。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

<上昇要因>

- ・米ドル高円安が進んだこと。
- ・米連邦準備制度理事会（FRB）の利下げ期待が高まったこと。
- ・米国経済の底堅さが確認されたこと。

<下落要因>

- ・FRB高官が利下げに慎重な姿勢をとったこと。
- ・中東情勢が悪化したこと。
- ・米景気後退懸念が高まったこと。

<投資環境>

(米国株式市況)

当期の米国株式市場は、全体として上昇しました。

期首から2024年3月までは、米国の経済指標がインフレ鈍化を示唆したことや、主要企業の好調な決算が相場を支え、上昇基調で推移しました。4月は、FRB高官による利下げ慎重姿勢や中東情勢の悪化が重しとなり、下落基調となりました。その後、5月から6月にかけては、好調な米国企業決算やインフレ鈍化が支援材料となり、再び上昇に転じました。7月から8月は、米景気後退懸念が高まり、大きく下落する局面もありましたが、FRBによる金融政策への期待が市場を支え、堅調に推移しました。9月から10月にかけては、FRBが利下げを実施し、米経済成長の見通しが上方修正されたことが好感され、市場は上昇基調を維持しました。11月以降はトランプ氏が大統領選で勝利し、同氏が掲げる規制緩和や減税が米国景気を刺激するとの期待が市場を大きく押し上げました。

(為替市況)

当期の米ドル円為替相場については、米ドルが上昇しました。

期首から2024年6月末までは、米国のインフレ指標や雇用統計の結果を受けて、米国の早期利下げ観測が後退し、日米金利差が意識される中、米ドル円相場は160円台まで上昇しました。7月から9月半ばにかけては、日銀の追加利上げ観測が高まったことや米国景気の失速懸念が強まる中、米ドルは下落しました。9月半ば以降は米国の経済指標が堅調な結果を示したことから、米ドルが再び上昇しました。

<当ファンドのポートフォリオ>

S&P500指数（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ・コアS&P 500 E T F」を主要投資対象として運用を行いました。

上場投資信託の組入比率は、高位の水準を保つように努めました。

<当ファンドのベンチマークとの差異>

当期の基準価額の騰落率は+36.5%となり、同期間のベンチマークの騰落率である+36.8%を0.3%下回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因としては、売買執行コスト、投資先E T Fの分配金に対する課税や上場投資信託における運用コスト等が挙げられます。

<今後の運用方針>

引き続き、主として上場投資信託である「iシェアーズ・コアS&P 500 E T F」へ投資することで、実質的に米国の株式に投資を行い、S&P500指数（配当込み、円換算ベース）に連動することを目指します。

○1万口当たりの費用明細

(2023年12月21日～2024年12月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (投 資 信 託 証 券)	円 1 (1)	% 0.006 (0.006)	(a)売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (投 資 信 託 証 券)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b)有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	2 (2) (0)	0.012 (0.012) (0.000)	(c)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	3	0.018	
期中の平均基準価額は、18,693円です。			

(注1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2023年12月21日～2024年12月20日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国	アメリカ ISHARES CORE S&P 500 ETF	口	千ドル	口	千ドル
		286,420	152,513	38,517	22,057

(注1) 金額は受渡代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2023年12月21日～2024年12月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2024年12月20日現在)

外国投資信託証券

銘 柄	期首(前期末)		当 期 末		比 率	
	口 数	口 数	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%	
ISHARES CORE S&P 500 ETF	546,231	794,134	466,021	73,608,120	99.9	
合 計	口 数 ・ 金 額	546,231	794,134	466,021	73,608,120	
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	1	-	<99.9%>	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) < >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切り捨て。

<組入上位ETFの保有銘柄の明細>

※BlackRock Inc. 作成のANNUAL REPORTの内容を基に、しんきんアセットマネジメント投信(株)が作成しています。

iShares Core S&P 500 ETF

組入上位10銘柄 (2024年3月31日現在)

(組入銘柄数 503銘柄)

	銘 柄 名	比 率 (%)
1	MICROSOFT CORP	7.1
2	APPLE INC	5.6
3	NVIDIA CORP	5.1
4	AMAZON COM INC	3.7
5	META PLATFORMS INC CLASS A	2.4
6	ALPHABET INC CLASS A	2.0
7	BERKSHIRE HATHAWAY INC CLASS B	1.7
8	ALPHABET INC CLASS C	1.7
9	ELI LILLY	1.4
10	BROADCOM INC	1.3

○投資信託財産の構成

(2024年12月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	73,608,120	98.5
コール・ローン等、その他	1,134,799	1.5
投資信託財産総額	74,742,919	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産(74,508,537千円)の投資信託財産総額(74,742,919千円)に対する比率は99.7%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2024年12月20日現在、1ドル=157.95円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年12月20日現在)

○損益の状況 (2023年12月21日～2024年12月20日)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	75,765,653,987
コール・ローン等	891,721,151
投資信託受益証券(評価額)	73,608,120,441
未収入金	1,022,734,628
未収配当金	243,077,577
未収利息	190
(B) 負債	2,079,952,061
未払金	1,229,952,061
未払解約金	850,000,000
(C) 純資産総額(A-B)	73,685,701,926
元本	34,288,827,723
次期繰越損益金	39,396,874,203
(D) 受益権総口数	34,288,827,723口
1万口当たり基準価額(C/D)	21,490円

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	952,270,206
受取配当金	952,237,294
受取利息	40,297
支払利息	△ 7,385
(B) 有価証券売買損益	16,214,188,925
売買益	16,235,969,837
売買損	△ 21,780,912
(C) 保管費用等	△ 7,020,330
(D) 当期損益金(A+B+C)	17,159,438,801
(E) 前期繰越損益金	13,773,461,551
(F) 追加信託差損益金	10,206,414,879
(G) 解約差損益金	△ 1,742,441,028
(H) 計(D+E+F+G)	39,396,874,203
次期繰越損益金(H)	39,396,874,203

(注1) 当親投資信託の期首元本額は23,970,851,574円、期中追加設定元本額は12,023,445,121円、期中一部解約元本額は1,705,468,972円です。

(注2) 当親投資信託を投資対象とする投資信託の当期末元本額
しんきんS&P500インデックスファンド 34,269,762,391円
しんきんUSバランズ・プラスゴールド(1年決算型) 19,065,332円

(注3) 1口当たり純資産額は2,1490円です。

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

運用報告書

親投資信託

しんきんゴールドETFマザーファンド

第4期

(決算日：2025年2月25日)

しんきんゴールドETFマザーファンドの第4期に係る運用状況をご報告申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
主要投資対象	米国の金融商品取引所に上場している投資信託証券（以下「上場投資信託証券」といいます。）を主要投資対象とします。
運用方針	①主として上場投資信託証券に投資を行い、金地金価格への連動を目指します。なお、上場投資信託証券の選定および変更にあたっては、当ファンドの商品性および運用上の効率性等を勘案し委託者の判断により決定するものとします。 ②上場投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。 ③運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。 ④組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ⑤市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
投資制限	①株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ②新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ③投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ④同一銘柄の転換社債および新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ⑤同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ⑥外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 騰 落 中 率	投 資 信 託 純 資 産 額	組 入 比 率
(設定日)	円	%	百万円	%
2021年6月14日	10,000	—	3	—
1期(2022年2月25日)	10,533	5.3	53	93.2
2期(2023年2月27日)	11,511	9.3	10	99.9
3期(2024年2月26日)	13,972	21.4	18	99.9
4期(2025年2月25日)	19,981	43.0	48	99.3

(注1) 当初設定時の基準価額は当初元本（1万円当たり10,000円）として記載しています。（以下同じ。）

(注2) 当ファンドは、上場投資信託証券へ投資することで、金地金価格への連動を目指していますが、特定のベンチマークおよび参考指標はありません。

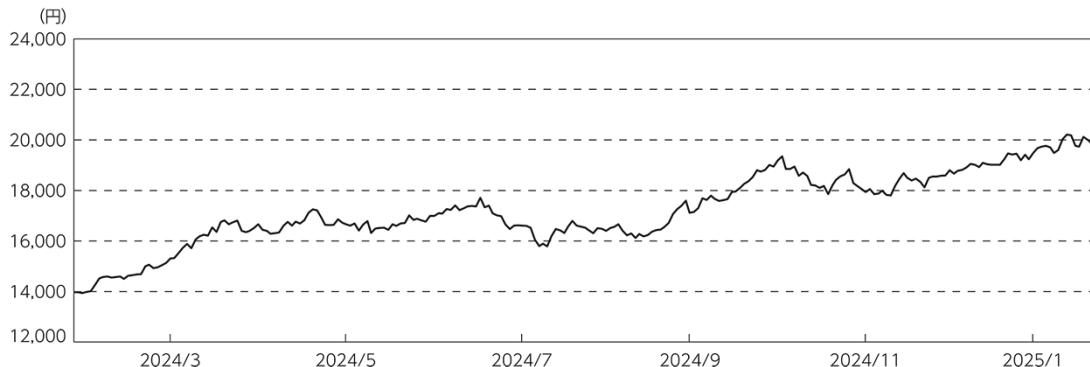
○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	投 資 信 託 純 資 産 額	組 入 比 率
(期 首)	円	%	百万円	%
2024年2月26日	13,972	—	99.9	99.9
2月末	13,986	0.1	99.9	99.9
3月末	15,315	9.6	99.9	99.9
4月末	16,658	19.2	99.3	99.3
5月末	16,660	19.2	99.4	99.4
6月末	16,990	21.6	99.5	99.5
7月末	16,613	18.9	99.8	99.8
8月末	16,515	18.2	99.8	99.8
9月末	17,114	22.5	99.7	99.7
10月末	19,348	38.5	99.8	99.8
11月末	17,943	28.4	99.7	99.7
12月末	18,670	33.6	99.9	99.9
2025年1月末	19,471	39.4	99.7	99.7
(期 末)	円	%	百万円	%
2025年2月25日	19,981	43.0	48	99.3

(注) 騰落率は期首比です。

○第4期の運用経過等（2024年2月27日～2025年2月25日）

<当期中の基準価額等の推移>



当ファンドは、上場投資信託に投資を行い、金地金価格への連動を目指して運用を行っています。当期の基準価額は上昇しました。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

<上昇要因>

- ・中東情勢が激化したこと。
- ・2024年9月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で0.5%の利下げが実施されたこと。
- ・トランプ次期政権の関税政策に対する警戒感が高まったこと。

<下落要因>

- ・米連邦準備制度理事会（FRB）高官が利下げに慎重な発言をしたこと。

<投資環境>

（金市況）

当期の金相場は、大きく上昇しました。

期首から2024年4月中旬にかけては、米国の経済指標の悪化に伴うFRBの早期利下げ期待の高まりや中東情勢の激化などを背景に、金相場は大きく上昇しました。8月末にかけては、一部のFRB高官が利下げに慎重な発言をしたことなどから下落する局面もありましたが、フランス政治の混乱によるリスク回避の動きや中東の地政学リスクの高まりなどを背景に、じりじりと上昇する展開となりました。10月中旬にかけては、9月のFOMCで0.5%の利下げが実施されたことや、米大統領選挙に対する不透明感などから、金相場は大きく上昇しました。当期末にかけては、急激な上昇に対する警戒感が高まり、売りが優勢となったことや、米大統領選挙でトランプ氏勝利を受けた米10年債利回りの上昇が重しとなり、下落する局面もありました。しかし、中国の金融政策スタンスの緩和による金需要の増加や、トランプ次期政権の関税政策に対する警戒感などから、安全資産としての買いが優勢となり、もみ合いながら上昇しました。

(為替市況)

当期の為替（米ドル円）相場は、米ドル安円高となりました。

期首から2024年6月末までは、米国のインフレ指標や雇用統計の結果を受けて、米国の早期利下げ観測が後退し、日米金利差が意識される中、米ドル円相場は160円台まで上昇しました。7月から9月半ばにかけては、日銀の追加利上げ観測が高まったことや米国景気の減速懸念が強まる中、米ドルは下落しました。9月半ばから2025年1月上旬にかけては、米国の経済指標が堅調な結果を示したことなどから米10年債利回りが上昇し、米ドルが上昇しました。当期末にかけては、日銀が利上げを実施したことや米10年債利回りが低下したことなどから再び下落しました。

＜当ファンドのポートフォリオ＞

金地金価格への連動と信託財産の成長を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ ゴールド・トラスト」を主要投資対象として運用を行いました。

上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

＜当ファンドのベンチマークとの差異＞

当ファンドは、上場投資信託へ投資することで、金地金価格への連動を目指して運用を行っていますが、特定のベンチマークおよび参考指標はありません。

＜今後の運用方針＞

引き続き、主として上場投資信託である「iシェアーズ ゴールド・トラスト」へ投資することで、金地金価格への連動と信託財産の成長を目指します。

○1万口当たりの費用明細

(2024年2月27日～2025年2月25日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (投 資 信 託 証 券)	円 71 (71)	% 0.414 (0.414)	(a) 売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (投 資 信 託 証 券)	0 (0)	0.002 (0.002)	(b) 有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	73 (70) (3)	0.428 (0.412) (0.016)	(c) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	144	0.844	
期中の平均基準価額は、17,106円です。			

(注1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2024年2月27日～2025年2月25日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国	アメリカ	口	千ドル	口	千ドル
	ISHARES GOLD TRUST	11,244	493	8,747	392

(注1) 金額は受渡代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2024年2月27日～2025年2月25日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2025年2月25日現在)

外国投資信託証券

銘 柄	期首(前期末)		当 期 末			
	口 数	口 数	評 価 額		比 率	
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%	
ISHARES GOLD TRUST	3,236	5,733	319	47,955	99.3	
合 計	口 数 ・ 金 額	3,236	5,733	319	47,955	
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	1	-	<99.3%>	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) < >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2025年2月25日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	47,955	90.5
コール・ローン等、その他	5,010	9.5
投資信託財産総額	52,965	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産(48,245千円)の投資信託財産総額(52,965千円)に対する比率は91.1%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2025年2月25日現在、1ドル=150.23円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年2月25日現在)

○損益の状況 (2024年2月27日~2025年2月25日)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	52,965,805
コール・ローン等	5,010,370
投資信託受益証券(評価額)	47,955,435
(B) 負債	4,659,971
未払金	4,659,971
(C) 純資産総額(A-B)	48,305,834
元本	24,176,285
次期繰越損益金	24,129,549
(D) 受益権総口数	24,176,285口
1万口当たり基準価額(C/D)	19,981円

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	35
受取利息	35
(B) 有価証券売買損益	14,836,275
売買益	15,828,662
売買損	△ 992,387
(C) 保管費用等	△ 158,644
(D) 当期損益金(A+B+C)	14,677,666
(E) 前期繰越損益金	5,333,104
(F) 追加信託差損益金	28,166,428
(G) 解約差損益金	△24,047,649
(H) 計(D+E+F+G)	24,129,549
次期繰越損益金(H)	24,129,549

(注1) 当親投資信託の期首元本額は13,426,064円、期中追加設定元本額は46,638,572円、期中一部解約元本額は35,888,351円です。

(注2) 当親投資信託を投資対象とする投資信託の当期末元本額しんきんUSバランス・プラスゴールド(1年決算型) 24,176,285円

(注3) 1口当たり純資産額は1.9981円です。

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。